

会 告

日本鉄鋼協会行事案内

開催月日	行 事	申込締切	会告ページ
6月 7月 4日(月)	第2種講演申込(第72回講演大会) 特別講演会(大阪) <i>Prof. Dr. R. W. K. HONEYCOMBE</i> <i>Dr. L. S. DARKEN</i>	6月18日	4月号 N26 5月号 N39 N55
8月 9月 18-19(月・火)	第4回技術講座 鋼に対する合金元素の効果について 第2種講演概要原稿締切(第72回講演大会)	8月31日	N56 4月号 N23 5月号 N39 N56
10月 19-20(月・火)	第5回技術講座 鉄鋼の格子欠陥		
10月 16-19(日・月・火・水)	第72回講演大会(鉄鋼短期大学・尼崎)		追って掲載

会費払込みのお願い

昭和41年分会費の納入期日が過ぎましたが、納入されていない方は大至急払込み下さるようお願い申し上げます。払込みには綴り込みの振替用紙を利用されるか、定額小為替証書または現金書留によるご送金の方が便利かと思われる。

会費払込み方法については、毎年12月に翌年分を一度にお払込みになるか、または12月に翌年1月から6月までの6カ月分を、6月にその年の7月から12月までの6カ月分を2度にかけて払込みいただくことになっております。

記

会 費 正会員 2000円 学生会員 1200円
送付先 東京都千代田区丸の内 1-1 日本交通公社ビル8階
 日本鉄鋼協会
 振替貯金口座 東京 193

特別講演会開催のお知らせ

本会では、ケンブリッジ大学教授 *R.W.K. HONEYCOMBE* 博士と、U. S. Steel Corp. 基礎研究所長 *L. S. DARKEN* 博士が6月下旬から7月上旬にかけて来日されます。この機会に両博士に特別にお願いして下記の通り特別講演会を開催いたします。多数会員お誘い合わせのうえ、ご来聴下さるようご案内申し上げます。

記

1. 日 時 昭和41年7月4日(月) 13:00~17:00
2. 会 場 大阪科学技術センター 8階大ホール
(大阪市西区靱町 1-118 Tel 大阪 443-5321)
3. 演題ならびに講師
The Strengthening of Steel
Prof. Dr. R. W. K. HONEYCOMBE (University of Cambridge)
Some Comments on the Physical Chemistry of Metals. (仮題)
Dr. L. S. DARKEN (U. S. Steel Corp.)
4. 乗 物 市バス梅田より肥後橋経由 阿倍野行または上六行にて靱公園前下車
地下鉄3号線 信濃橋下車(北へ50m)

技術講座開催のお知らせ

本会では、会員はじめ関係各位のご要望により、鉄鋼界にあつて製造、研究の業務に携わる人々が常識として把握しなくてはならないテーマを広く取り上げ、それぞれの権威者から最近の動向、発展の方向についてお話しを願い、討論を行なうために日本鉄鋼協会技術講座を開催してまいりました。

第4回、第5回の技術講座を下記の通り開催することになりましたので多数会員奮つてご来聴下さるようご案内申し上げます。

第4回 技術講座

“鋼に対する合金元素の効果について”

日 時 昭和41年7月18日(月), 19日(火) 9:00~17:00

場 所 大和証券ホール (東京都中央区八重洲 1-2-4)

第 1 日

1. 合金元素選定の考え方について 9:00~12:00
日本特殊鋼(株)技師長 佐藤 忠雄君
2. ボロンの影響について 13:00~16:00
東北大学金属材料研究所教授 今井勇之進君

第 2 日

3. ニオブの影響について 9:00~12:00
八幡製鉄(株)八幡製造所副製造所長 大竹 正君
4. 希土類元素の効果について 13:00~16:00
早稲田大学理工学部教授 長谷川正義君

第5回 技術講座

“鉄鋼の格子欠陥”

日 時 昭和41年9月19日(月), 20日(火) 9:00~16:00

場 所 大和証券ホール (予定)

本講座の特長

- (1) 格子欠陥や転位論に関して全く予備知識のない人にも解るように入門から始める。
- (2) 入門が終つた後、鉄鋼に重点を置いた講義を行なう。鉄鋼に重点を置いた講義は従来あまり行なわれていないから、これは本講座の特長であるといえよう。
- (3) 読んだだけでも解るようなテキストを用意するから、出席できない人もテキストを購入することをおすすめする。

第 1 日

1. 転位論入門 9:00~12:00, 13:00~14:00
東京大学工学部教授 橋口 隆吉君
2. 鉄鋼の点欠陥 (不純物を含む) 14:00~16:00
大阪大学基礎工学部教授 藤田 英一君

第 2 日

1. 鉄鋼の点欠陥 (続) 9:00~10:00
大阪大学基礎工学部教授 藤田 英一君
2. 鉄鋼の強度の転位論 10:00~12:00,
13:00~15:00
東京大学理学部教授 鈴木 秀次君
3. 質疑応答 15:00~16:00

第73回講演大会討論会テーマのお知らせ

昭和42年春季大会

来春の第73回講演大会におけるテーマは、アンケートなどをとつて検討しました結果、下記のように決定いたしましたので奮つてご応募下さるようお願い致します。

なお討論論文の募集要領は追つて会告欄にてご案内いたします。

記

1. 第73回講演大会討論会テーマ

1) 鉄鉱石の熱割れに関する問題

(熱割れの機構, 試験法, 対策, 高炉操業におよぼす影響など)

2) 純酸素上吹転炉における脱炭反応とその他の反応

(脱炭, 脱ケイ, 脱リン, 脱ガス反応など)

3) 薄板の深絞り加工性

4) オーステナイトステンレス鋼の高温クリープ中組織変化

5) 鉄鋼の格子欠陥

2. 原稿募集方法

「第73回講演大会講演募集」時にあわせ詳細を發表いたします。

第2種講演論文申込み要領

- 1) 講演申込み締切 昭和41年6月18日(土)12時着信厳守のこと。
- 2) 申込方法 前記「講演申込み上の注意」ご覧のうえ、添付の第2種講演申込み用紙(橙色)に必要事項ご記入のうえ、返信用封筒(宛先明記, 10円切手粘付のこと)を添えお申し込み下さい。
- 3) 講演時間 1講演につき講演10分, 討論5分
- 4) 講演概要 講演概要は前刷としてオフセット印刷いたします。
 (1) 申込書受付と同時に講演申込者は所定のオフセット用原稿用紙をお送りいたしますので、原稿用紙1枚(表, 裏, 写真を含み1300字)に墨または黒インクで明瞭にお書き下さい。(執筆案内は原稿用紙送付の際同封いたします)
 (2) 講演概要は読者が、研究の内容, 成果などを理解しやすいようにお書き下さい。
 (3) 原稿締切日 昭和41年8月31日(水)16時着信厳守のこと。
- 5) 講演前刷 「講演概要集」として発行いたします。
概要集は希望者に有料頒布となりますが、詳細は追つてご案内いたします。
- 6) 概要講演の投稿 第2種講演は事後討論を含めたその内容を講演論文として会誌に掲載いたしますので、11月10日までに協会編集課宛原稿をご提出願います。
この論文は「講演論文寄稿規定」に準じてご執筆下さい。

Tetsu-to-Hagané Overseas 名称変更についてのお知らせ

— Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan —

本会では、わが国の鉄鋼に関する学術・技術を海外に紹介し、わが国鉄鋼業に対する世界の認識を高め、かつ活発な交流を図る目的をもって、昭和36年より鉄と鋼海外版「Tetsu-to-Hagané Overseas」を年4回刊行してまいりました。本誌をさらに一段と充実させ、わが国における最も信頼できる、代表的かつ最高の学術技術誌に発展させるために、本年度より名称を下記のごとく変更することになり、また発行回数も従来の年4回から年6回に増刊することになりました。(巻, 号は継続いたします)

記

Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan.

(旧名称 Tetsu-to-Hagané Overseas)



Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan への

論文投稿のお勧め

本会編集委員会では、Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan への会員各位の論文投稿をお待ちいたしております。

従来は原則として、鉄と鋼誌に掲載された論文から掲載論文の選定をしてまいりましたが、優れた研究成果を海外に早期に紹介するには時間がかかりすぎておりましたので、編集委員会では、会員各位が本誌に自由に投稿できるように、Transactions 論文寄稿規程を設け、昭和41年1月1日より実施いたしております。

講演大会に未発表でも、会誌に未掲載の論文でも投稿できますので、会員各位奮つて優れた研究成果をご投稿下さるようお待ちしております。

なお、寄稿規程は会告N58ページに掲載してあります。

「Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan」

論文寄稿規程

- (1) 本協会会員は本寄稿規定に従い、本協会英文誌「Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan」に論文を寄稿することができる。
- (2) 論文は、本誌に載せる前に、ほかの学協会誌およびそれに類する刊行物に欧文（英、独、仏）により発表されていないものに限る。
- (3) 論文は、著者の独創的研究成果を主体としてまとめられたものとし、その研究成果がひろく鉄鋼に関する学術ならびに技術へ寄与すると認められるものでなければならない。
- (4) 論文は、研究目的、研究方法、研究結果、考察（従来の研究との比較検討を含む）結論などが、正確にかつわかりやく記述されているものとする。
- (5) 論文は英文とする。英文は正確であることはもちろん、文章の書き方が学術論文あるいは技術論文にふさわしい格調をもっていることが要求される。
- (6) 論文には必ず 500 語以内の synopsis を添付する。synopsis は、それによつて論文の要旨が具体的にわかるように書かれていなければならない。
- (7) 英文原稿の本文は、厚手のタイプ用紙（A 4 判）に上下おのおの約 3 cm の余白を残し、27 行詰、ダブルスペースとし、タイプライターをもつて清書する。英文原稿（図、写真、表を含む）は正副 2 通、論文および synopsis の日本語訳各 1 通（本会所定の原稿用紙使用）を提出する。また日本文原稿の左側に英文ページのvariety目を書き入れる。
- (8) 論文の原稿の長さは、表を含めてタイプ用紙 30 枚（表は 1 表をタイプ用紙 1 枚とみなす）以内とし、図、写真は原則として 10 枚以内とする。同一事項を図、表両方で表わさない。
- (9) 単位は原則として CGS 単位系を用いるが、電磁気量の場合には MKS 単位系を用いてよい。単位の略記号は国際的慣用に従う。周知でない単位には略記号を用いない。
- (10) 元素名、合金名、化合物名、学術用語などで、本文中にしばしば出てくるものは、文章の短縮を目的として記述の明確さを失なわない程度に、なるべく化学記号その他の略記号によつて示すが、その論文の主題となつている研究の領域で慣用的な短い名称、用語は記号表示しない。略記号を用いる場合には、本文中それが最初に出てくるところでその略記号の意味を明示する。（例）Austenite (γ)……, Lankford value (R)。
- (11) ギリシャ文字、記号、上ツキおよび下ツキ添字などをペン書きするときにはていねいに記し、混同しやすい文字、記号はとくに注意して書く。（例 a と α ; P と p と ρ ; O と o と 0 ; Fe^{2+} , H_2O ）ゴシック、イタリックを指定するときは、その文字の下にそれぞれ \sim , — を付ける。
- (12) 数式は印刷に便利のように注意し、 a/b , $(a+b)/c$ のように、不明確にならない程度になるべく少ない行数で表わすように書く。また数段にわたる複雑な数式はタイプでなくペン書きとする。
- (13) 表、図、写真には別々に通し番号および説明文を付ける。その説明文のみによつて表、図、写真の意味が理解できる程度に簡潔に書く。写真には必ず倍率を記入する。
- (14) 図および写真は横の刷り上がり寸法が下記のいずれかの寸法となるように、刷り上がり寸法の 2~3 倍とし、て下記の縮尺記号を赤字で記入しておく。（イ）横 8cm（縮尺記号 A）（ロ）横 17cm（縮尺記号 B）
刷り上がり後の縦の寸法は 25cm 以下とする。
- 図は厚手の白紙、オイルペーパー、または青色方眼紙を用いて正確に書き、図および図中の文字はローマン体で縮尺を考慮して十分な大きさおよび間隔をもつて正確に書く。
- (15) 表、図、写真は散逸を防ぐため、タイプ用紙と同じ大きさの台紙に貼付し、右下隅に著者名を記入する。表、図・写真は原稿本文中に挿入せず別紙とし、原稿中には右欄外にそれらの挿入箇所を指定する。原稿本文中に表、図、写真挿入箇所を指摘し空白にあげない。
- (16) 参考文献は通し番号を付け、本文の最後に一括して番号順に示し、本文中における文献引用箇所にはその文献の番号（かつこ付き）を上つき小数字で示す。
参考文献は、著者名：雑誌名、巻数、発行年度、号数、ページ数 の順に記載する。
（例）R. K. Grass: Blast. Furn. & Steel Plant, 64 (1958), 2, 198-204.
雑誌名は付表の略記例に従う。単行書は著者名：書名、（発行年度）ページ数、[出版社名] の順に記載する。
- (17) 寄稿論文の受理年月日は、原稿が本協会に到着した日付とする。論文の内容の主要部が本協会講演大会あるいは会誌「鉄と鋼」で発表されている場合には、その講演論文または論文を脚注として示す。
- (18) 寄稿論文は編集委員会において審査される。審査の結果、修正、加筆、削除などが要求され、原稿をいつたん著者に返送することがある、その場合修正原稿を 1 カ月以上経過して協会に再提出したときは、新規提出とみなされる。
- (19) 掲載論文については希望に応じ、所定の料金で別刷を作製する。

図書刊行のお知らせ

本会では下記の図書を「日本鉄鋼協会特別報告書」として刊行することになりました。購読希望者には有償頒布いたしますので、お申し込み下さい。

I. 書名 計測部会報告書 (特別報告書 No. 3) (高炉炉頂ガス分析, 高炉装入原料の秤量)

1. 内容

- | | | |
|--------------|----------------------|----------------------|
| (1) 高炉炉頂ガス分析 | 2.2.2 吸収方式(MONO) | アンケートのまとめ |
| 1. 概要 | 2.2.3 密度式 | イ 高炉と分析計使用状況 |
| 1.1 はじめに | 2.2.4 赤外線式 | ロ サンプリング系の構成 |
| 1.2 意義 | 2.2.5 プロセス用ガスクロマトグラフ | ハ サンプリング構成各部の詳細および特色 |
| 2. 実施例 | 2.3 Sampling 系 | ニ サンプルガスの状況 |
| 2.1 あらまし | 3. 保守 | ホ サンプリング系の保守状況 |
| 2.2 各社使用分析計 | 4. 問題点 | ヘ 設置より現在までの保守状況 |
| 2.2.1 熱伝導式 | | 計測部会資料一覧表 |

からなり、各種分析計の性能比較、設置方法、精度の維持保全などを含む諸問題が、鉄鋼各社の実用経験をもとに記述されている。

(2) 高炉装入原料の秤量

- | | | |
|------------|---------------------|--------------|
| はしがき | 3.1 鉱石秤量車 | 影響 |
| 1. 秤量の目的 | 3.2 ホッパー秤量機 | 4.3 防振対策 |
| 1.1 原料の装入 | 3.3 コンベア秤量機 | 4.4 防塵対策 |
| 1.2 原料の切出し | 4. 秤量機の保守 | 4.5 管理図 |
| 2. 秤量系統 | 4.1 精度保持 | 5. 希望精度と水分補正 |
| 2.1 原料の受入 | 4.1.1 秤量車の簡易検査と精密検査 | 5.1 希望精度 |
| 2.2 原料の切出し | 4.1.2 比較秤量 | 5.2 水分補正 |
| 2.3 原料の捲上げ | 4.2 秤量車におよぼす軌条の | 6. 故障状況 |
| 3. 投入用秤量設備 | | あとがき |

以上は計測部会秤量分科会が発足以来手がけてきた問題であり、鉄鋼各社の実情が詳細にまとめられている。上記のごとく、この方面の業務に携わる関係者に有意義な指導書であります。

2. 編集 日本鉄鋼協会共同研究会計測部会
3. 頒価 会員 600 円 非会員 800 円 (送料不要)
4. 発行 昭和 41 年 6 月上旬

II. 書名 高炉製鉄法の理論

1. 内容

- 第1章 高炉内におけるガスと原料の運動
第2章 高炉内における分解および還元の諸過程
第3章 高炉内における還元過程の機構と Kinetic
第4章 スラッグの生成、性質およびその炉内諸過程への影響
第5章 高炉湯溜内諸過程の意義
第6章 高炉の熱精算とその利用
結論、文献

からなり、理論的な解析と高炉生産の実際的な諸問題を系統的に、かつ詳細に解明したもので、高炉作業に従事する技術者をはじめ、学生の学習書としても有益な文献であります。

2. 著者 A. D. Gotlib (ソ連)
3. 訳者 東京大学教授 館 充
4. 頒価 会員 2,000 円 非会員 2,500 円
5. 発行 昭和 41 年 7 月下旬

申込方法 書名および送付先を明記のうえ、代金同封現金書留にてお申し込み下さい。

申込先 東京都千代田区丸ノ内 1-1 交通公社ビル

日本鉄鋼協会

学 協 会 記 事

金属材料技術研究所創立10周年記念研究発表会

— 6 月 28 日～30 日 —

金属材料技術研究所創立10周年記念研究発表会が下記により開催されますので多数会員ご参加下さるようお知らせいたします。

記

日 時 昭和41年6月28日(火)～30日(木),
9:00～17:00

場 所 金属材料技術研究所
(東京都目黒区中目黒2-300)
(参加費不要, 聴講自由, 会場に制限があります)

1. 基調講演: 毎日 9:30～12:30

28日 Some Suggestions Regarding National Research
理博 橋本字一 (金属材料技術研究所々長)
Interstitial Solutions of Noble Metals in Metals and Semiconductors
Prof. D. Turnbull (Harvard University, U. S. A.)

Recovery and Recrystallization of Deformed Aluminum
Prof. O. Dimtrov (Chef de Service, Centre d'Etudes Chimie Métallurgique, France)

29日 The Physics-chemical Investigations on Steelmaking Processes in Japan
工博 的場幸雄 (富士製鉄(株)中央研究所々長)
Some Comments on the Physical Chemistry of Metals
Dr. L. S. Darken (Director, Fundamental Research Laboratory, U. S. Steel Corp., U. S. A.)
Behaviors of Metals under Strong

Magnetic Field

理博 広根徳太郎 (東北大学金属材料技術研究所々長)

Precipitation Processes in Alloy Steels
Prof. R. W. K. Honeycombe (University of Cambridge, U. K.)

30日 Recent Development of Light Metals in Japan

工博 麻田 宏 (東京大学宇宙航空研究所教授)

Solubility of Gases in Refractory Metals and Precipitation from Supersaturated Solid Solutions

Prof. E. Gebhardt (Direktor, Max-Planck-Institut für Metallforschung, West Germany)

Metals and Non Metals

理博 水島三一郎 (八幡製鉄株式会社東京研究所々長)

Technological Testing of Large Elements
Prof. E. Amstutz (Präsident, Eidgenössische Material-prüfungs-und Versuchsanstalt, Switzerland)

2. 研究発表: 毎日 13:30～17:00

28日 物理冶金, 電磁気材料, 製練

29日 鉄鋼材料, 塑性加工, 腐食防食

30日 非鉄金属材料, 材料試験, 溶接, 分析

金属関係学協会東北支部連合 第4回研究発表会

日本鉄鋼協会, 日本金属学会, 日本鋳物協会, 日本鋁業会, 溶接学会の各東北支部が連合して下記のように研究発表会を開催します。多数ご参加下さい。

1. 日 時 9月9日(金) 9:00～17:00 研究発表会
9月10日(土) 10:00～12:00

見学会 (株)本山製作所(仙台市北仙台駅前)

2. 会 場 東北大学工学部金属材料工学科
(仙台市南六軒丁)

3. 研究発表申込要領

講演希望学協会支部名, 講演題目, 講演者名を記して7月10日までに申込むこと。申込者には当方より

原稿用紙を送り規定様式により講演概要を執筆し8月10日までに返送していただきます。

4. 参加申込要領

氏名, 連絡先, 勤務先, 所属学会, 講演概要集の必要部数(1部300円の予定), 見学会の出, 欠を記入して8月10日までに申し込むこと。

5. 申込先 仙台市桜小路 東北大学工学部金属加工学科内 日本鋳物協会東北支部

九州支部講演大会のお知らせ

— 6 月 17 日 —

本会九州支部では下記により講演大会を開催いたしますので、多数会員参加下さるようご案内いたします。

記

日 時	昭和 41 年 6 月 17 日 (金) 9:00~16:00	
場 所	八幡製鉄所技術研究所講演室 (北九州市八幡区枝光町 1-1)	
講 演	9:00 球状黒鉛鑄鉄におけるひけの成因について	日立戸畑 高 橋 良 治
	9:45 溶鋼の熱力学的性質について	九 大 工 小 野 陽 一
	10:30 小倉第 1 高炉の炉壁浸解状況について	住金小倉 芳 木 通 泰
	11:15 スーパーコートについて	八幡技研 米 崎 茂 次
	13:00 高速度工具に関する材質的研究	熊 本 大 堀 田 秀 次
	13:45 鋼材の靱性に関する 1 考案	三菱重工長崎 中 村 誠 重
	14:30 鍛鋼製焼入れロールに関する 2, 3 の研究	三菱製鋼長崎 三 浦 勝 重
	15:15 溶融亜鉛メッキ浴に対する Mg および Ca の添加効果	九州工大 相 良 学

第 16 回 塑性加工シンポジウム

— 高エネルギー高速度加工 —

主 催	日本塑性加工学会	午後部 (13:00~16:00)
共 賛	日本機械学会	司 会 大阪府大 齋藤 浩一
協 催	日本鉄鋼協会ほか 5 学協会	同志社大 中村 寛
日 時	昭和 41 年 7 月 15 日 (金) 9:50	3. 高速ハンマ成形 神戸製鋼 山口 正邦
場 所	同志社大学会館ホール	4. 爆発成形法について 大阪府大 井上 卓
講 演		5. 放電成形 島津製作所 乾 安行
午前の部 (10:00~12:00)		討 論 (16:00~17:00)
	司 会 中 大 古川 浩	司 会 京都工繊大 井上 友一
1. 高速度形による金属組織の変化	東工大 作井 誠太	
2. 高速荷重下における金属材料の諸性質	京大工 田中吉之助	

第 13 回 腐食防食討論会

場 所	松山市文京町 3 愛媛大学工学部	懇 親 会	11月15日(火)討論会終了後
期 日	昭和 41 年 11 月 15 日 (火) ~ 18 日 (金)	場 所	松山市一番町 伊予鉄会館
	主題および一般討論会, 15日(火)~17日(木)	申 込	講演申込: 7 月末日, 原稿提出: 8 月末日,
	パネルディスカッション, 18日(金)		参加申込: 9 月末日 (所定の申込み用紙にて
討論題目	I. 主 題 (1) 冷却水による腐食		お願いいたします)
	(特別講演 1 題)	会 費	(1) 参加費 500円
	(2) 特殊金属材料の腐食		(2) 要旨集 1300円 (当日 1500円)
	(特別講演 1 題)		(3) 懇親会費 1500円
	II. 一 般 主題のほか広く腐食防食と関連	申 込 先	松山市文京町 3 愛媛大学工学部冶金学教室
	ある課題で討論の対象となるも		内 第 13 回 腐食防食討論会 実行委員会
	のを希望します。		Tel 松山 2-7111
	III. パネル (1) 不動態と点(孔)食		
	(2) 応力腐食割れ		

日本金属学会セミナー

続・格子欠陥と金属の機械的性質

協 賛 日本鉄鋼協会ほか4学協会
 日 時 41年7月18日(月), 19日(火)
 会 場 大阪科学技術センター (大阪市西区靱1-118)
 聴 講 料 (テキスト代を含む)
 会 員 (維持員会社の社員を含む) 3,000 円
 非 会 員 6,000 円
 学生会員 (大学院学生を含む) 1,000 円
 学生非会員 2,000 円
 (協賛学協会の会員は会員価とします)
 定 員 200 名
 申込締切 6 月 30 日 (ただし定員に達し次第締切ります)
 申込要領 別紙申込書各欄記入の上聴講料をそえ, (現金書留, 為替, 振替仙台5592のいずれでもよい)
 下記宛お申し込み下さい. 到着次第聴講券をお送りします.
 申 込 先 仙台市東一番丁11 (東一ビル) 日本金属学会 電話(23) 3685, (25) 3098
 なお東京地区において9月中旬(または10月初旬)同一内容で再度開催致します.

日 程

第 1 日	第 2 日
点欠陥の最近の理論計算 東大工学部教授 橋口 隆吉	固溶体硬化 東大物性研教授 鈴木 平
電子顕微鏡観察を主とした2次欠陥の挙動 広島大理学部教授 吉田 錦	塑性変形による格子欠陥の形成 京大工学部教授 高村 仁一
金属の破壊と疲労 阪大工学部教授 藤田 英一	BCCの強度に関する最近の転位論 東大理学部教授 鈴木 秀次

応力測定に関する講習会

共 催 日本材料学会, 日本材料学会関東支部
 協 賛 日本鉄鋼協会ほか8学協会
 開催期日 昭和41年7月26日(火)~29日(金)
 申込締切 昭和41年7月15日(金)
 会 場 講義: 東京都立アイソトープセンター (東京都世田谷区深沢町)
 実習: 東京都立大学工学部
 定 員 講義・実習-50名, 講義のみ-左記 50名のほか 100名
 聴 講 料 講義・実習-会員 8000 円, 非会員 9000 円, 講義のみ-会員 3500 円, 非会員 4000 円
 申 込 先 日本材料学会講習会係 (京都市左京区吉田泉殿町 1-101, Tel 76-5321)

演 題 お よ び 講 師

第1日 26日(火)	第3日 28日(木)・第4日 29日(金)
応力測定総論 都立大工 川田 雄一	両日とも 9:30~16:00 まで実習, 内容は次のとおり
X線応力測定 京大工 平 修二	X線応力測定 (フィルム撮影からマイクロフォトメーターによる応力測定まで)
第2日 27日(水)	応力塗料 (塗装・乾燥の具体的方法と増感法による新測定法)
応力塗料 京工織大 菅野 昭	抵抗線ひずみ計 (金属, コンクリート, 高分子へのゲージ貼付および測定, 新製品の实演, 展示)
半導体ひずみ計 豊田中研 五十嵐伊勢美	
最近の動的ひずみ測定器 共和電業 河野 耕造	
最近のワイヤストレンゲージ 新興通信 島田 貞夫	

第9回自動制御連合講演会講演募集要項

主催 計測自動制御学会, 中部自動制御研究会, 日本機械学会, 日本自動制御協会, 日本繊維機械学会
参加学協会 日本鉄鋼協会ほか5学協会
幹事学会 計測自動制御学会 (東京都港区芝罘平町20計測会館内 Tel 502-1917)

開催期日 昭和41年10月10日(月), 11日(火)

講演会場 国立教育会館
 (東京都千代田区霞ヶ関 Tel 580-1251)

- 講演申込**
- ① 講演希望者は所属の主催または参加学協会を通じて指定の申込用紙により申し込むこと。
 - ② 講演内容は発表されたものでさしつかえないが, なるべく最近の研究で学術的なものであること。
 - ③ 講演時間は約20分(討論を含む)の予定。
 - ④ 講演の採否, 分類などは運営委員会に一任願います。
 - ⑤ 申込用紙が不足の場合には所属学協会へ申し出ること。
 - ⑥ お申し込みになりました講演のお取消しはできませんからご注意ください。

- 部門**
- 第1部 自動制御理論
 - 第2部 自動制御要素
 - 第3部 自動制御の各種工業への応用
 - 第4部 計測

講演申込締切期日 昭和41年7月20日所属学協会必着

講演前刷 聴講者のテキストとし, あわせて講演時間の短縮, 掛図などの節約を図るため講演者全部の講演前刷を作ります。講演者は前刷原稿を必らず期日までに直接計測自動制御学会へ提出して下さい。

- ① 講演前刷原稿締切期日
昭和41年8月20日(必着)
- ② 前刷原稿は規定の原稿用紙2枚(図, 表, 写真を含めて邦文にて2,600字以内)に, 明瞭に墨書して下さい。なるべく余白をさけるよう留意して下さい。
- ③ 前刷原稿の用紙および書き方の詳細は幹事学会から講演申込者に送付いたします。
- ④ 講演前刷はオフセット印刷になりますから写真も入れられます。所定の用紙以外の用紙に書いた原稿は受け付けません。

最近の鋼の熱処理技術講習会

共催 日本材料学会 日本熱処理技術協会
協賛 日本鉄鋼協会関西支部ほか3学協会
日時 昭和41年7月21日(未)・22日(金)
会場 大阪科学技術センター401号室 大阪市西区靉 1-118
定員 150名(定員になり次第締切ります)
聴講料 会員(共催, 協賛学会会員)4,000円 非会員 5,000円いずれもテキスト代含む
教材 教材のみご希望の方は1部1,000円にて頒布します。(ただし発送は講習会終了後)
申込方法 7月11日(月)までに申込用紙にて聴講料を添えて
申込先 日本材料学会講習会係(京都市左京区吉田泉殿町 1-101 Tel 76-5321)

演題および講師

第1日 7月21日(木)	第2日 7月22日(金)
鋼の変態図の理論と応用	最近の炉気制御と熱処理
住 金 中 研 邦武 立郎	三菱重工京都 曾我美 豊
鋼の焼入性と焼入設計	最近のソルトバスとソルトバスを応用した熱処理・脱スケール
神 鋼 中 研 木下 修司	不二越技研 近藤 正男
超強力鋼の進歩と熱処理	鋼の高周波熱処理の進歩
東 大 工 荒木 透	高周波熱錬 嵯峨 敏郎
鋼の加工熱処理の進歩	最近のハダ焼鋼とその浸炭処理方法
京 大 工 田村 今男	山陽特殊製鋼 結城 晋